



富山市長 藤井裕久

No.41 「心に残るシンボルツリー」

台風の影響が心配された越中八尾「おわら風の盆」が、沢山の観光客をお迎えして無事開催できたことは嬉しい限りである。立春から数えて二百十日の風封じと五穀豊穡を願う、三百年余の歴史を刻む伝統行事の本領発揮ということだろうか。

さて、最盛期を迎えた稲刈り風景を横目に母校である神保小学校の前を通ると、その前庭では何時もと変わらず堂々とそびえ立つ松の並木を見ることができる。この松たちは、自分が入学するずっと前から母校のシンボルツリーとしてたくさんの新入生を迎え、その成長を見守り、送り出してくれた。子どもの頃はずいぶん大きく見えたが、その印象は今も変わらない。校門のそばの一際立派な松の木は、地面から3メートルの高さまではやや斜めに伸びており、小学生が木登りをするにはうってつけの形状で、先生に見つからないようにこっそりと登ったことを思い出す。当時の木造校舎は跡形もないが、今も変わらないこの木々を眺めていると、お世話になった恩師や同級生の笑顔、楽しかった思い出がつい昨日の出来事のように蘇ってくるのである。

ところで、新築時やお子さんが生まれた記念に、玄関先や庭などにシンボルツリーを植樹するご家族が増えているようだ。かつては新築時に植樹するシンボルツリーは松や檜などが多かったようだが、最近はオリーブやシマトネリコ、きれいな花が楽しめるサルスベリやヤマボウシなども人気があるという。マンションにお住まいの方々にも室内

やベランダで観賞される常緑樹や観葉植物などは大変人気がある。

自分が子どもの頃は実家をはじめご近所の農家の敷地で、柿や栗、梅やイチジク、ザクロや桑などの「実のなる木」も多く見られたものである。柿や栗などは高所に実をつけるので、竹竿の先をV字に切れ目を入れた自作の道具で、たわわに実った果実の手前の枝を挟みながらもぎ取った。柿や栗の実を取るの子どもたちの仕事であり、兄弟や近所の子どもたちと夢中になって収穫したことは良き思い出である。敷地の中に竹林がある家も珍しくなく、春には筍や路を採り、夏にはミョウガなども採れて、今思えば実に季節感に満ちていたものだ。

さて、少し脱線したのでシンボルツリーの話に戻そう。見る人々に安らぎを与え、子どもたちの成長を見守り、家族とともに歴史と思い出を重ねて行く、シンボルツリーとはそんな存在であろう。そして、私たち一人一人に、通学・通勤の道すがら、あるいは職場や近所の公園などに、心に残るシンボルツリーがあるのだと思う。

とりわけ未来を生きて行く子どもたちにとっては、日常生活の中にある檜や桜、イチヨウや身近にある木々たちが、ふるさとの情景として「心に残る大切なシンボルツリー」になって行くのだろう。



母校のシンボルツリー

今月の 広報クイズ

10月19日(出)に、「〇〇〇〇〇サミット」が北陸で初めて開催されます。

〇に入る文字は？ 答「〇〇〇〇〇サミット」

富山市公式LINEかはがきで回答してください(1人1通)。

LINEの場合

右の二次元コードから友だち追加をして、メニューから回答。



はがきの場合

答と郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号と「広報クイズ」と書いて、広報課(〒930-8510 新桜町7-38)へ。

締切日▶10月15日(火)(必着) 賞品▶500円分の図書カード
当選発表▶賞品の発送で代えさせていただきます(抽選で5人)。

前月の答え 家庭ごみ 前月の応募総数 432件(正解数431件)



とやま情報局

今月の
放送日 10月27日(日)11:45～

放送局 KNB北日本放送(1ch)

テーマ 「桐朋学園 富山キャンパス」

富山市呉羽地域にある桐朋学園音楽部門の富山キャンパス。豊かな知性と卓越した演奏技法を身につけた演奏家の育成とともに、音楽の魅力を多くの人に伝えるための取り組みを紹介します。

HP市ホームページ(No.1002571)